

友だちとよりよく関わろうとする 生徒をめざして

遠藤 真由美

はじめに

C男は、T中学校からこの4月に本校高等部に入学してきた。人なつっこく、誰にでも自分から話しかけるため、すぐに新しい環境に馴染み、友だちができた。休憩時間は、大好きなCDをかけ、歌ったり、踊ったりしている。また、体育館で友だちと一緒にバスケットをしたり、外でブランコに乗ったりして、楽しく過ごしている。自分からどんどん友だちに関わっているC男である。

しかし、その様子をよく観察すると、C男の一方的な働き掛けで終わってしまい、相手の友だちの言うことを受けて自分の言葉を出すことがうまくできないなど、十分に関わりを楽しみきれていない場面がよくある。

楽しく毎日の生活を送っているC男ではあるが、自制心の形成の段階にあるC男にとって、周りの大人の評価を基に、設定された場面のなかで自分の気持ちをコントロールし、友だちとのよりよい関わり方を身につけることで、さらに学校生活が充実した楽しいものになると考え、次のような実践をした。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和56年12月24日生 16歳 1か月 高等部 1年男子
- ・平成 9年 4月 T中学校より、本校高等部に入学

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査

WISC-R IQ 40以下

田中ビネー式 6歳 2か月

- ・S-M社会生活能力検査 6歳 3か月

(3) 行動の特性

- ・明るく、誰にでも自分から話しかける。
- ・定着するまでに時間がかかるが、言われたことはきちんとしようと頑張る。
- ・細かい正確さを要求される作業は苦手である。
- ・回りの雰囲気へのせられやすい。
- ・語彙は豊富でよく話すが、言葉の意味の理解が十分でないため、表面的な会話になったり、自分の言動に責任が持てなかったりする。



休憩時間に楽しく過ごすC男

表-7 S-M社会生活能力検査

身辺自立	移動	作業	意志交換	集団参加	自己統制
5-0	7-5	6-7	7-8	6-8	5-8

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

自分から友だちにどんどん話しかけて、関わりを持とうとするC男ではあるが、友だち

同士の会話に敬語を使う等話し方が不自然だったり、相手の話のなかのある言葉だけに意識がいき、話全体の意味が分からないことが多い。話をしている雰囲気は楽しんでいるが自分の言いたいことだけを話していて会話が成り立っていないことがよく見られた。

そこで、C男のめざす「生活を楽しむ」像を次のように設定した。

＜めざす「生活を楽しむ」像＞

友だちとよりよく関わろうとする生徒をめざして

C男の様子をよく観察し、十分に関わりを楽しみきれない原因として、

- ・言葉はたくさん知っているが、その言葉の意味を十分に理解せずに使っている。何となくそれで分かったような、できたような気分になり、それが許されてきた。
- ・友だち同士で自然に関わりあう経験が少なかったため、関わり方が分からない。集中力を欠くため、相手の言っていることをしっかり聞いてから、自分の考えを言うという経験が少ない。
- ・身の周りのことがきちんとできないため、友だちからそのことへの指摘を多く受け活動への取りかかりが遅れ気味になる。その結果、活動に意欲的に取り組めなくなり、友だちとの関係がうまくいかなることがある。

の3点を考えた。

そして、次のような手だてをすればめざす「生活を楽しむ」像に近づいていくと考えた。

- ・「できました」と言ってきたときに本当にできたかどうか一緒に目で確認し、「できる」ということがどういうことなのかつかんでいく。

このように、C男の言っている言葉をひとつずつ大切にし、それを具体的に確認していけば、自分の言葉に責任を持つのではないか。

- ・その場にふさわしい話し方を指導者が示したり、友だちの考えを聞きながら関わらなくてはいけない場面を意図的に設定したりする。

これにより、自然な関わりを身につけたり人の話を集中して聞こうとしたりする姿勢につながるのではないか。

- ・家庭とも連携を取りながら、具体的に何度も繰り返す。

このようにして、身の周りのことがきちんとできるようになることで、周りの友だちとのトラブルが減り、良好な関係を作ったり、活動への取りかかりが早くなり意欲的な活動につながったりするのではないか。

以上のような仮説の基に実践にあたった。

(2) 指導の方針

○自分の言葉について

言葉をひとつずつ確認することで、自分の言葉に責任を持つようにする。

○やりとりについて

場面を設定し経験を増やすことで、相手の話をきちんと聞いたり、自然な関わりができるようにする。

○身辺自立について

家庭との連携を取り、正しい方法で繰り返すことで、定着を図るようにする。

(3) 具体的な手立て

○自分の言葉について

C男と一緒に指導者がC男の言葉を1つずつ具体的に確認して、自分の言っていること、できていること、できていないことが本人に分かるようにする。

○やりとりについて

指導者が、その場にふさわしいモデルを示したり、相手の話をきちんと聞いて関わらなくてはいけない場面を意図的に設定したりする。

○身辺自立について

家庭との連携をしっかりと取りながら、基本的な生活習慣を正しい方法で繰り返す。

3 指導の実際

次に、3つの課題ごとにその実際の指導を述べていく。

(1) 自分の言葉について

自分の言葉の意味がよく分からないままに発表や報告をすることがあるので、一つ一つの言葉の意味を確かめていくことで、自分の言っていることを考えるようにした。

なかでも、「できます」「分かりました」をよく使うが、実際にしてみるとできなかつたり、分からなくて困ってしまう場面が見られたので、最初は、「分かりました」といって行動したときは困っていても意識的に声かけ等の支援をせず、本当は分かっていたということを感じさせるようにした。また、「どんなことが分かったのですか」「ではどうしたらいいのですか」等の声かけをし、自分の言ったことや次の行動を確認することで本当に分かるというのがどういうことなのか確認していった。

*職業（紙工班）での取り組み

職業では、きまった言葉を繰り返し使うことにより、質問や報告の方法が定着しやすい。また成果がすぐに見えることから、実際に自分が言った言葉を目で確認しやすい。

このような理由から、自分の言葉の意味がどんなことが気づき、自分の言葉に責任を持ちやすい。

活版印刷の活字の返しがC男の主な仕事である。返しの箱に入った活字を棚に返していく。一度に5つずつ入れてC男に渡すようにした。「できそうですか」と聞いたところ、「はい、できます」という答えが返ってきた。友だちはどんどん返しをしていくが、やり方がよく分からないC男は返すことができない。もう一度「できますか」と声をかけても「できます」という答えが返ってくる。



そこで、しばらく意識的に声かけ等の支援はせず、だまって様子を観察していた。 **質問しているC男子**

一時間かかって、一箱も返すことができなかったことと、友だちはたくさん返すことができていたことから、「できます」という答えは本当だったかどうかを考えた。

このようなことを繰り返すことで、「できます」という答えを安易に使わなくなりそ

の代わりに「分からないので教えてください」という質問が増えてきている。

学習場面や日常生活のさまざまな場面での積み重ねで、最近では少しずつではあるが自分の言葉を考えて使ったり、「そのためには」「どうしてか」というように次の自分の行動につながったり自分で自分の言葉の意味を考えたりするようになってきた。

(2) やりとりについて

相手の話をよく聞かなかったり、関わり方が不自然だったりすることが多いため、意図的に場面を設定し、経験を増やしていくことにした。

*生活一般での取り組み

調理の学習の時、指導者の意図的なグループでA男と2人でフルーツ白玉を作ることになった。計画の時から、2人組で相談して決めていかなくてはいけない。C男が話し合いを進める役割を、A男がそれを書く役割をした。普段は何となく雰囲気を楽しんでいるだけで済むが、相手の話をよく聞いて材料を決めたり、手順を決めたり調理の分担を決めたりしなくてはいけない。

相手の話を自分の思いで聞いてしまうC男は、A男が「くだもの」と言っただけで、「りんご」に決めるといった様子で話し合いを進めようとしていた。そこで、指導者がなかに入り、一つ一つ確認を取りながら、話し合いを進めていくうちに相手の思いを確認しながら、材料や調理の分担を決めていくようになった。

(3) 身辺自立について

更衣に時間がかかったり、服の端が出ていたりと身の周りのことがきちんとできないことが多いC男は、そのために活動に遅れ意欲的な活動ができなかったり、友だち関係に支障が生じたりすることが多い。そこで、正しい方法で繰り返すことにより、定着を図ることにした。

繰り返し指導をしていく中で、少しずつではあるが、技能と意識が定着しつつあり、少し早く服を着替えることができ、洋服の端がはみ出していることも少なくなった。また、友だちの服を間違えることも少なくなっている。

これにより、意欲的に活動に取りかかることが増えたり、友だちとの関わりも良好なものになってきつつある。

4 反省と今後の課題

このような取り組みにより、少しずつではあるが、まず考えてから話す場面が見られ、自分の言葉についても責任を感じてきつつある。

また、友だちとの関わりも少しずつ相手の話をきちんと聞いたり、自然なやりとりになったりしてきている。休憩時間には、大好きなCDをかけているが、教室にいる友だちに次の曲のリクエストや今の曲の感想を聞き、少しずつ会話が成り立ってきている。今の段階では指導者が間に入りながら会話を進めているが、経験を積んでいくことで、少しずつ自然な会話が成り立つと考えられる。

繰り返していくことで、ゆっくりではあるが着実に身につけていくことができるC男である。今後、更に継続して指導していくことで、よりよい友だちとの関わり方を身につけていくと考える。